



滝小だより

滝頭小学校学校だより 2018th

平成 30 年 7 月 20 日

8 月号

横浜市立滝頭小学校

校長 鶴飼 数夫

《学校教育目標》 手をつなぎ 進んで学ぼう 滝小の子



〒 235-0011 横浜市磯子区丸山 2-25-1 TEL 045-751-0344,0345 Fax 045-761-9392

URL: <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/takigashira/> **滝頭小** **検** **索**

Mail: y3takiga@edu.city.yokohama.jp カラー高解像度版は学校 HP に掲載中 Every day



絆いっぱい 笑顔いっぱい 大好き滝小

Everlasting Bonds , Shining Smiles , We ♡ TKG

水の怖さ・大切さ

校長 鶴飼 数夫

観測史上初となる6月の梅雨明けにより、既に猛暑が到来しております。明日からは、子どもたちにとって待望の夏休みとなります。しかし、全国を見渡せば、それどころでない地域もあります。先ずは、この度の西日本豪雨により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。一刻も早い復興を願うと共に私共のできることは何かを考え、行動に移したいと思ひます。

今回の災害を通して感じる大切なキーワードとなるのは、「水」です。太古の昔より、水は地球上の自然を形作ってきました。右の写真は、先日、修学旅行で訪れた奥日光中禅寺湖の様子です。北関東の山々に降った雨水は、子どもたちが泊まった宿舎の裏山から湧き出て、小さな「湯の湖」という場所に注ぎます。



中禅寺湖遊覧船上より
上野島と男体山を望む

そして、「湯滝」となって溢れて戦場ヶ原の湿地帯を形作り、「龍頭の滝」を経て男体山の噴火により堰き止められた「中禅寺湖」に集まり、たっぴりと混えた湖水は、「華厳の滝」となって一気に大谷川に流れ落ちます。その水の旅は、やがて鬼怒川、利根川と続き、関東平野を流れ太平洋に注ぎます。その間に、日光国立公園や鬼怒川温泉郷の美しい景観を造形し、訪れる人々の心に潤いを与えてくれています。しかし、それは平時の姿であって、ひとたび大雨が降れば、川は氾濫し、山肌は崩れ、大きな災害となって人々に襲いかかり、その度毎に自然の驚異と畏怖を同時に味わってきました。それは、どこの地方でも長い年月の中で積み重ねられてきた自然との闘いの歴史で、現在も続いています。「水を治めるものは国を治める。」とも言われてきました。

一方、生物である私たちは、水なしでは生きていくことができません。6年生の子どもたちは、この大谷川水系を水の流れと共に辿るように歩き、2日目の宿舎近くの「神橋」に着きました。その間、体力・生命を維持するために、ペットボトル2本の水を計画的に摂取しました。もし、この水がなかったら、きっと途中でリタイヤする児童が続出したことでしょう。水の大切さを改めて身をもって体感しました。

しかし、横浜に住む私たちにとっては、普段の生活の中で、この感覚を感じることは少ないと思ひます。なぜなら、神奈川県、特に横浜市は、関東地方の他府県と比べて水源が豊富で、今年のような猛暑であっても水不足になるようなケースがごく希だからです。上水道が計画的にしっかりと整備され、渇水による大きな給水制限が行われたのは、1994年以後、記憶にありません。節水とは無縁と言える生活さえ可能とも言えます。さすが、近代水道発祥の地横浜と感心してしましますが、ひとたび大地震のような災害に見舞われれば、都市のインフラは一瞬にして破壊され、いくら水源が豊富であっても間違いなく水不足に陥ります。現在、西日本の被災各地では、その状況が続き、日々の生活に大変困っておられるようです。日頃から、節水を心がけて生活することは、こういうところに意味をもってつながってくるのだと知りました。

この夏休み、海・川・湖・プールなどへの行楽で、水と接する機会が多くなると思ひます。水の怖さと大切さを同時に感じながら、安全で楽しい35日間を過ごしてください。そして、滝小大好きな笑顔が元気に戻ってくることを待っています。